

萬世大路

東北中央自動車道
(福島～米沢北) 通信

第34号 平成25年4月 発行

平成25年度

東北中央自動車道工事 新規工事が発注されました!



① 梓山道路改良工事 ◆山和建設(株)
区間: 米沢市万世町梓山～米沢市中田町地内
工期: H25年3月～H25年9月
内容: 梓山地区で切土した土砂を中田地区に運搬・盛土する工事

② 桑山道路改良工事 ◆置賜建設(株)
区間: 米沢市万世町桑山～米沢市川井地内
工期: H25年3月～H25年9月
内容: 桑山地区で切土した土砂を桑山及び川井地区に運搬・盛土する工事

③ 万世地区構造物工事 ◆置賜建設(株)
区間: 米沢市万世町桑山～米沢市万世町金谷地内
工期: H25年3月～H25年10月
内容: 万世高架橋(仮称)の橋の土台と(全7基のうち2基)道路ボックス1基を造る工事

各社の協力のもとに安全第一で工事を進めて参ります。
工事中は、地域の方々や利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご協力とご理解のほど宜しくお願い致します。

④ 米沢IC道路改良工事 ◆(株)後藤組
区間: 米沢市万世町桑山～米沢市川井地内
工期: H25年3月～H25年10月
内容: 米沢IC(仮称)付近で切土した土砂を川井地区等に運搬・盛土する工事

⑤ 川井地区道路改良工事 ◆(株)松田組
区間: 米沢市川井～米沢市窪田町小瀬地内
工期: H25年3月～H25年9月
内容: 他工事の土砂を利用して川井地区に運搬・盛土、藤泉橋の土台(全2基のうち1基)を造る工事

万世大路の歴史

- 米沢街道 (天文18年～明治32年)
- 万世大路 (明治14年～昭和40年)
- 国道13号 (現在使われている国道)
- トンネル
- ⋯⋯ 奥羽本線

この2つの隧道は隣合わせにあります！

【二代目】栗子隧道
(昭和8年～昭和12年施工)



【初代】栗子山隧道
(明治9年～明治14年施工)



昭和に入り栗子山隧道を拡幅し、栗子隧道となります！



※苜安新道・中野新道(万世大路建設中の呼び名)
○福島側→中野新道
○山形側→苜安新道

～万世大路のはじまり～

明治以前の福島から米沢間は、伊達政宗が開いたといわれる米沢街道(現JR奥羽本線沿いの板谷峠越えの道)が主でした。周囲を山に囲まれた置賜地方は農業が盛んに行われておりましたが、せっかく収穫した農作物の輸送手段には必ず峠を越えなければならず、荷車や牛馬の交通はもちろん物資の輸送には大変な苦勞をしていたそうです。

明治9年に鶴岡・山形・置賜の3つの県が合併し、山形の初代県令(現在の県知事)として三島通庸が任命されました。県令は、県政方針の第一を道路建設として、米沢・福島・関東を結ぶ「栗子峠道」の新道計画を立てました。同年12月には米沢郊外の刈安隧道の掘削からはじめて、続いて栗子山隧道の工事にも着工しました。工事は、当時の幼稚な土木技術では堅い岩盤と丈余の積雪には歯が立たず、難工事だったそうです。そのため、アメリカ製の穿孔機を購入！これは当時、とても貴重な機械でアメリカとイギリスに1台ずつしかなく、日本で3台目のもので、抗夫の手掘り掘削と比較すると、実に30人分の力を持ちます。

このようにして、西から穿孔機、東からは手掘りで工事は進められ明治13年に貫通し、翌年10月に明治天皇を迎えて開通式を行いました。こうして、山形から関東地方への人馬車の交通が初めて可能となり、明治天皇より「萬世(万世)大路」と名付けられたのでした。

栗子山隧道が貫通したときの喜びを三島県令が詠みました



ねけたりとつぶさるに夢さめて
通うもうれし穴の初風
実貫し、鏝と鏝とのゆき違ひは
結びの神の恵みなるらむ

◆現在の万世大路◆

昭和41年以降、万世大路は廃道となっており、昭和47年頃の落盤によって栗子隧道は通行ができなくなってしまいました。米沢側では、栗子山隧道と栗子隧道の坑口がふたつ並んでおり、今でも大自然の中にひっそり歴史の足跡を残しています。



栗子山隧道(延長867.6m)は
日本初の長大トンネル！
ほぼ山頂に近い標高880mのところを
通過しました！

◆開通1ヶ月の交通状況◆
・1日の通行人…70人～120人
・荷車……………6台～21台





夢を結ぶ
東北中央道

ご意見・お問い合わせ先
国土交通省 東北地方整備局
山形河川国道事務所 米沢監督官詰所

〒992-0011 山形県米沢市中田町 260-2
TEL: 0238-37-5570 FAX: 0238-37-5575

